

柳井医療センター だより

第 4 号

〈発行所〉
国立病院機構
柳井医療センター
〈発行責任者〉
住元 了



新年の挨拶 院長 住元 了

いつも柳井医療センターの病院運営に多大なるご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。新年のご挨拶を申し上げます。

よく齢を重ねるたびに1年がより早く過ぎ去ると言われますが皆様方はどうお感じになられているでしょうか。この理由を某ラジオ番組の中で誰かが言っていました。年を重ねるにつれ様々な出来事に感動が薄れ、空しく単調に時が過ぎ去ると時間が経つのが早く感じられるのではないかと思います。皆さんはどうですか？

さて、昨年も色々な出来事が起こりましたね。広島が多発的土砂災害や、御嶽山の火山爆発では多く尊い命が犠牲になりました。自然の脅威にはただただひれ伏すのみです。日本の政治経済に目を向けますと、アベノミクス政策の是非が問われました。それは失敗だったのかそれとも賢明なる最善の策でまだ道半ばであったのか？ 総選挙の結果は今暫くアベノミクスをみてみようという世論の表れだったとっていいのではないのでしょうか。皆さんはどのように御判断されたのでしょうか。では当院の出来事を振り返ってみましょう。昨年の特筆すべき出来事はなんと言っても日本病院機能評価受審でしょう。その節は職員の皆様方にはご協力ご尽力賜り有り難うございました。百数十ある項目の内、ほとんどがA評価であったにも拘わらず医師不足(C)があるからという一点で合格が保留となりました。この点に関しましては院長として大いに責任を感じておるところです。今後とも常勤医師獲得に引き続き尽力してまいります。またヘリポートの設置、新宿舎の3回に亘る入札(連続不落)も大きな出来事でした。ヘリポートに関しましては外科的処置が必要な脳卒中患者や、院内の患者の急変時に高度救命救急センターへの搬送が必要なケースはドクターヘリの利用を積極に行い、患者さんの救命率の向上をはかりたいと思います。

本年度も地域医療の貢献のため職員一同頑張っておりますので皆様方のご支援ご協力何卒よろしくお願い申し上げます。

理 念

- 一 良質の医療を提供します
- 一 素晴らしい療養環境を提供します
- 一 患者満足度の向上に努めます
- 一 職員満足度の向上に努めます

5 階病棟紹介

5階病棟は56床の神経内科病棟で、主にパーキンソン病・筋萎縮性側索硬化症・脊髄小脳変性症等の患者さんが入院されています。現在52名入院されておりその内、人工呼吸器を装着されている患者さんが17名です。合併症の早期発見や安全管理等の細心の注意をはらいながら看護しております。

構音障害や人工呼吸器の装着により、コミュニケーションが難しい患者さんには、「文字盤」などを使用しながら訴えなどに対応しています。

患者さん一人一人が今ある機能を最大限に発揮できるようリハビリ科と連携し、個々に応じた装具の作成、改良をしています。入院患者さんのほとんどがストレッチャー用・ミストシャワー入浴装置で介助入浴を行って入浴気分を味わってもらっています。呼吸器装着患者さんも、医師によって補助呼吸を行いながら入浴介助を行っています。



人工呼吸器患者の入浴介助中



つぶしとろみ食を介助摂取中

当病棟には「摂食・嚥下障害看護認定看護師」という頼れる看護師がいます。

一人でも多くの患者、家族の「食べたい」「食べさせたい」という気持ちが叶えられるよう栄養士、言語聴覚士と障害の原因のアセスメント、介入ポイントを明確にし、個別性をふまえ、食種や形態を選択し食事介助をしています。また、開口困難な患者さんにも視点をおき口腔ケアの勉強会を行い口腔の清潔を図っています。

晴れた日の5階病棟から見る景色は絶景であり、患者さん・家族の方の癒しの場になっています。病室、病棟で過ごすだけでなく入院生活の張り合いになるよう他職種と連携し散歩、夏祭り、クリスマス会などレクリエーションを見晴らしの良いイベントホールで行っています。

スタッフ一同、患者さんに寄り添った看護を提供できるように頑張っています。



周防大島の眺め

透析センター紹介

当院の血液透析センターは平成20年9月に開設され現在40名の患者さんが治療を受けています。平成25年6月には新病棟の3階に移動となり、医師4名、看護師7名、臨床工学技士4名、業務技術員1名で治療を行っています。

対象としては入院を必要とする患者さんの血液透析を主に行っておりますが、神経難病患者さんに対する血漿交換療法、胸水・腹水貯留患者さんに対する胸水腹水濾過濃縮再静注療法、敗血症患者さんに対するエンドトキシン吸着療法などの血液浄化療法も積極的に行っています。

日頃より各種血液検査、胸部レントゲン検査等を行い、定期的に透析カンファレンス、透析勉強会、透析相談会などで、患者さんの症状を細かく把握する様に行っています。

学術面においても地方および全国学会への演題発表を積極的に行っており、最新の知識と技術も取得できるようにスタッフ一同頑張っています。



表：主な学会・研究会発表演題

	学会・研究会名	演 題 名
平成 22 年	第 21 回中国腎不全研究会	『当院における血液浄化療法の現状（主に高齢入院維持透析患者について）』
平成 25 年	第 58 回日本透析医学会	『誤体重減少に向けての取り組み』
	第 22 回中国腎不全研究会	『柳井医療センターに於ける入院透析の現状と透析患者の長期入院について』 『穿刺難易度分類表の有用性～穿刺技術に応じた患者の選択と穿刺ストレスの軽減に向けて』 『日機装社製多用途透析監視装置 DCS-100NX の使用経験』
平成 26 年	第 59 回日本透析医学会	『適正な止血バンド法の検討』 『細菌同定検査を用いた当院の透析液清浄化の取り組み』
	第 23 回中国腎不全研究会	『人工透析用逆浸透精製水システム内の活性炭フィルタの早期交換を経験して』
	第 68 回国立病院総合医学会	『血液透析動静脈シャント管理における MRA の有用性』 『細菌同定検査を用いた当院の透析液清浄化の取り組み』



透析センターからの眺め

医療安全相互チェックについて

医療安全管理係長 宮 本 慶 克

国立病院機構では医療安全対策の現状について、病院間で意見交換及び評価を実施し、医療安全対策の標準化を推進するとともに、医療安全の質の向上と均てん化を図ることを目的として病院間医療安全相互チェックが実施されています。今年度当院もその病院間医療安全相互チェックを行うこととなりました。この病院間相互チェックは主に3病院間で行われます。この度は関門医療センターと山口宇部医療センター、そして当院の3病院の組み合わせとなりました。3病院間で日程を調整した結果、9月30日にチェックを受けるトップバーターが当院となりました。



まずは各部署が自己評価を行ったうえで、9月30日を迎えました。

当日は関門医療センター・山口宇部医療センターの副院長・医療安全管理係長はじめ総勢19名が来院されました。



相互チェックを前に
住元院長より挨拶。



マニュアルを閲覧後各部署への訪問と聞き取りが始まります。



休憩は5階デイルームで
景観を堪能して頂きました。

「患者確認の方法は?」「緊急 call は?」「食中毒対策は?」等々の質問。最初是对应するスタッフからも緊張感が伝わってきましたが、「それは良い取り組みですね。」「うちではこうやっています。これも良い方法ですよ。」「といったやりとりを交わす中で次第に緊張もほぐれ、和やかに且つ有意義な意見交換の場になりました。「マニュアルがわかりやすい。」「(病棟・薬剤科・検査科等)整理整頓され清潔に保たれている。」といったたくさんのお褒めの言葉も頂きました。素直に喜びました。もちろん違う角度からの意見も頂き、改善できることにはすぐに取り組みをはじめました。

当院のチェック終了後、10月28日と11月7日には関門医療センターと山口宇部医療センターへ宮地副院長はじめ当院のスタッフが訪問しました。他施設へ訪問することでたくさんの刺激と医療安全対策を行っていくうえでの多くのヒントを頂くことができました。

今回病院間相互チェックを通して施設の取り組みの現状を目の当たりにできたことで、たくさんの学びがありました。そしてなにより同じ山口県とはいえ遠く離れた2施設のスタッフと実際に意見交換することでお互いに顔の見えるネットワークづくりにもつながったように思います。今後も現状に甘んじることなく地道に医療安全の取り組みを継続して行っていきたいと思ひます。



クリスマスの電飾

庶務班長 建部 宏明

12月になりますと寒さはどんどん厳しくなっていますが、それとは逆にあちこちで様々な電飾が見られるにぎやかな季節となりました。当院でも一昨年12月に初めて電飾を実施し昨年在が2回目となりました。

一昨年は初めてということもあり勝手が分からず、正門の左右の樹木とその周辺に電飾を購入した業者に設置をしてもらいましたが、昨年は経費節減のためにも業者に依頼をせず庶務班一同で樹木に設置をすることと致しました。昨年は一昨年よりにぎやかにしようと考え追加で樹木3本に飾り付けをして合計6本となりました。電飾を樹木に垂らすには樹木と同じ高さの鉄の棒を設置しないといけないのですが、これがとても重く大変でしたが、設置して最初の夕方に電飾の点灯をしたところを見ると一機に感動に代わりました。特に、夜になると病院付近は何もなく真っ暗なので、暗闇の中では「柳井医療センター」のLEDサインと今回飾り付けをした七色に光る電飾が引き立ち、素晴らしい光景でした。



しかし、ある日夕方になると1本電気がついていない・・・あれ??と思い、付近を見わたしますと、敷地内に置いていた進入禁止のカラーコーンも全て吹き飛んでいるではありませんか。前日の夜に台風並みの風が吹き荒れており、その風のために電飾の配線がおかしくなったようでした。これを直すには、どうしたらいいかとナフコに通いつめた結果、部品を少し交換したら見事に復活しました。ナフコに何度も行ったおかげですっかり顔なじみになってしまい、ナフコの店員さんにも「医療センターの電飾はいいですね!!」と言われる存在となりました

年々飾り付けを増やしていきたいと考えており、今年は昨年よりも少し??豪華にできればと考えています。柳井医療センターの広大な敷地にはまだまだ電飾をする樹木は



有り余っております。このまま増えたと電気代が大変なことになるかもしれません!!が・・・療養環境整備の一環として、今後も柳井医療センターの発展とともに光り輝いていくものと思いますので12月になりましたら是非一度足をお運びください。

患者様より寄稿
していただきました。

闘病軍師

あっかんべーのコーナー

■「防災センター」 木谷善夫

防災センターの大きな行事としては、1月17日～24日防災展の開催、夏休み期間に小学生を消防署に一泊・防災体験させるものです。

防災展終了後、記者が「これだけの資料をどうされるか？」の問いに「撤収します」と答えると、「それはもったいない、うちの連載記事として一年間扱わせて貰えないか」と言うので、早速トップの許可を得た。

毎日新聞のミニコミ誌「ふれあい毎日」で毎月第一日曜日に県東部を中心に発行されていた。連載は、防府県立中央病院の院長江里氏（旧県立大学学長）の健康コーナーが終了したので、その後の防災コーナーとして扱いたいとの意向であった。そのような大先生の後に、私のような凡人が引き受けてよいのかと悩んでみたが、時代は、健康、防災、金融の話題を求めているとのこと、少しでもお役に立てばと思いました。

小学生を宿泊する「防災スクール」も子細な点がわかりません。消防学校派遣中、東京三鷹にある消防大学校に三ヶ月入校し、その時広島県安芸高田消防本部のOさんにお世話になりました。安芸高田では、週休実施に伴い、毎月小学生10名を宿泊・職場体験をしてきたと言う。一体どんなことをしているのか、視察させて頂く事になった。

そこで一大事件発生！なんと妻が休暇をとり、付いてくると言う。「遊びに行くのではない、宿を探す手間もかかる」と説得するもがんと聞き入れず、そのまま直行することに相成った。久しぶりの再会にOさん「あれ奥さんは？」「ニュージーランド村(現廃園)に降ろしてきた」

我署と違うのは、寝具が用意されていたこと。広島県LPG協会から配布された爆発実験装置による実演。小学生に質問するも、とにかく面白い、今回は10回目とのこと。ひたすらVTR記録の為、汗だくで撮影に追われた一日であった。あ～それなのに、それなのに。Oさんは、密かに総務課長に連絡を取り、夫婦で怪しまれずニュージーランド村へ迎えに行くよう、指令が出ていたのだった。それから市内観光、昼食はヤマメの塩焼きと生ビール、これって接待？。撮影が終わると、Oさん宅に招かれ鮎をご馳走になりました。

我「防災スクール」でやった事は、お皿にラップを巻いてカレーを食べたこと、朝食はパンの缶詰等の非常食を食べたこと、水を使わないシャンプーで髪を洗ったこと、素足で



ガラス片を踏むと危険なので卵の殻で模擬体感させたこと、避難所一人分のスペース（光市2㎡）のブルーシートを切って渡したところ寝間が青色で覆い尽くされたこと。

マスコミ内では、注目を集め取り上げて頂きました。TV、ラジオ、新聞各社、ローカル紙等。特に受験シーズンの頃、作成したお守りは新聞の全国版に掲載され、大ヒットのつもりでした。食器棚から食器が飛び出してこないよう、滑り止めを五角（合格）に切ってお守りとしました。いずれも入館者増を見込んで、体験者（代理可）のみに渡そうとしたのが間違いであった。春から一人暮らしを始めるフレッシュマンは、忙しく客足はイマイチ伸びなかった。

2/14は、バレンタインデーです。チョコレートを非常食として捉え、彼にそれを渡し、生き延びてねとの愛を確認する日としたのです。そして二月中の入館者には、粗品と

419.2.14
青鉛筆
▼バレンタイン、バレンタインとんでもバレンタインに引っかけける行事が相次ぐなかで、山口県光市にある光地区消防組合防災センターが「命を救うバレンタイン」を掲げている。
▼訪問客にチョコレートを渡すのだが、色恋ざたの酸い甘いではなく「非常食」として意識してもらうためという。チョコは保存ができて栄養価も高いからだ。
▼メッセージは「どんな時でも生き延びてね」。来月も、ホワイトデーにひっかけてキャンデーを配る。男女の愛は、どちら也非常時にこそ真価が発揮されるようだ。

してチョコレートを渡したのです。取材で訪れた TYS 編集局次長の一言「悔しいけどまた来ました」が印象的でした。防災展の取材から一月経ってないのが、悔しかったようです。

マスコミの対応も回を重ねると慣れてきます。マスコミが目しそうな文章を作成して、FAX で流します。取材で訪れた時渡す資料には、あいまいなことを記載せず、即答可能な事のみにするべきです。

M 新聞の A 記者は、疑問を持つと徹底的に追及するタイプで、私も最初は変わった人だなあと思いました。ふれあい毎日の記者さん

が、元 M 新聞の先輩だったこともあって仲良くなりました。こちらの熱い想いと記者魂が相まって、反対にコメントを求められ記事になったことがありました。

お客様の中には「あなたの言われる事はよく解りました。ところであなたは、実行されていますか?」と問われることがあります。「今皆さんに見て頂いた写真は、総て我家で撮ったものです」私のモットーは、お客様に負担を掛けなくすることです。防災用品は、アイデア商品と同じく割高です。それなら何かで代用できないか考えます。同じ価格ならもっと優れた商品を紹介します。見たこともないのにウソは、言えないので、北海道旭山動物園のバイオトイレ(鋸屑)を見学に行きました。日本発の行動展示で、長年日本一の入場者数を誇った上野動物園から首位を奪還したのだ。旭川市には、人口の2~3倍の人が押し寄せることとなった。そのためにダムを造り水洗化を図るのか、しかし最北の施設では凍結を覚悟しなくてはならない。冬の動物園が開園できたのは、バイオトイレのおかげであろう。



ある日、三人の親子連れがぶらりとやってきた。地震コーナーでは、普通母親が笑いながら「姿勢を低くしなきゃあダメよ」と子供を諭すのが一般的である。ところがそのお母さんは、子供二人を引き寄せ、更に自分の体で覆い被さったのです。その行為に思わずハッとさせられました。それは、遠く見なかった母親の姿に似ていたのです。フィリッピンのお母さんは、「地震のない地区で育ったので良く分からない」と言っておられました。「満点ですよ、お母さん」

私の指導要領は、皆様のお陰で満足のいくものに成っていったと思っていました。ところが耐震グッズの紹介で大失敗をしてしまったのです。ジェルの中に有効年数5年の表示を見落としていたのです。値段は、少しお高いのですが、張り直しも効くのでお勧めしてきました。5年経った頃から我が家のミニコンポでも、足に張ったところから解け始めたのです。どうしてこのような商品が市販されたのか、愕然としました。すぐアルコールを含ませた布でふき取り、強力マジックテープで張り替えました。

この場をお借りしましてお詫び申し上げます。

防災センターは、2年間お世話になり、その後通信指令室(119番通報を受けるところ)に異動となった。この頃から病気(ALS)が進行し始め、2年後早期退職となった。54歳の時である。(つづく)



平成26年9月1日～平成27年1月1日 人事異動



転 出				
日 付	区 分	職 名	氏 名	備 考
H26.09.30	退職	看護師	大下 優子	
H26.09.30	退職	看護師	村崎 精司	
H26.11.30	退職	神経内科医師	神原 智美	
H26.12.31	退職	看護師	杉山久美子	
H26.12.31	退職	看護師	安田 淳	
H26.10.31	退職	事務助手(非常勤)	宇多真由美	
H26.12.10	退職	看護師(非常勤)	洲山 悦子	

採 用				
日 付	区 分	職 名	氏 名	備 考
H26.11.01	採用	看護師	鶴川 秀子	
H26.12.01	採用	神経内科医師	久保川佳子	
H26.10.01	採用	准看護師(非常勤)	堤 和代	
H26.10.01	採用	准看護師(非常勤)	佐藤 留美	
H26.10.01	採用	業務技術員(非常勤)	宗吉 智子	

外 来 診 療 担 当 表

平成27年1月1日現在

 国立病院機構柳井医療センター

		月	火	水	木	金	備 考
内科(消化器・一般)		—	松本 信夫	—	松本 信夫	松本 信夫	
神 経 内 科	初 診	宮地 隆史	久保川佳子	竹田 育子	山崎 雅美	福場 浩正	
	再 診	竹田 育子	竹田 育子	宮地 隆史	宮地 隆史	—	
	再 診	福場 浩正	福場 浩正	上利美智子	久保川佳子	山崎 雅美	
外 科	初 診	住元 了	竹本 将彦	住元 了	池田 政宣	佐田 春樹	火・木曜日 午後手術日
	再 診	池田 政宣	佐田 春樹	田村 泰三	田村 泰三	安澤 紀夫	
	再 診	—	—	安澤 紀夫	竹本 将彦	—	
整 形 外 科		—	—	—	生田 祥也 (広大医師)	—	
循 環 器 内 科		—	—	小田 望 (広大医師)	—	—	
内科(肝・胆・膵・消化器)		福原 崇之 (広大医師)	—	—	—	—	
内科(糖尿病・内分泌)		—	—	—	—	大久保博史 (広大医師)	
内 科 (腎 臓)		—	—	—	—	吉田 健 (広大医師)	
内 科 (内 視 鏡)		松本 信夫 福原 崇之 (広大医師)	—	松本 信夫 第4週 栗原 美緒 (広大医師)	第1・3週 中村 松美	—	
皮 膚 科		—	第1・3週 鼻岡 佳子 第2・4週 入福 令子 (広大医師)	—	—	—	
泌 尿 器 科		広大医師	—	—	—	—	午後のみ

※発達療育相談外来(随時 受診には事前予約が必要です)

〒742-1352 山口県柳井市伊保庄95 独立行政法人国立病院機構柳井医療センター

電 話 0820-27-0211 (代 表)

F A X 0820-27-1490 (連携室)

メー ル renkei@yanai.hosp.go.jp

H P http://yanai-hosp.jp/

外来受付時間

8時30分～12時00分

出張・休暇等の理由により、担当が変更となる場合がありますのでご了承ください。